

1990年8月18日 第1回演奏会 堺市民会館

第1部

▼R. シューマン▼

二人の敵弾兵

▼L. v. ベートーヴェン▼

『オリーブ山のキリスト』より終曲「天使の合唱」

▼W. A. モーツァルト▼

“Sancta Maria mater dei” “Ave verum corpus”

▼景山久雄 編曲▼

童謡メドレー

▼C. モンテヴェルディ▼

アリアンナの嘆き

第2部

▼W. A. モーツァルト▼

「レクイエム」ニ短調 (K.626) より

Requiem/Kyrie/Confutatis/Lacrimosa/Agnus Dei

モンテヴェルディのアリアンナを歌いたい——
そんな数人の願望が思いがけず、この合唱団を生みました。
1989.8.20.の発足以来、初めてのステージです。

1991年11月16日 第2回演奏会 南大阪教会

第1部

▼J.ハイドン▼

ミサ第5番 変ロ長調

神なる聖ヨハネのミサプレヴィス(小オルガンミサ)

▼大中恵▼

『サっちゃん』より

「さっちゃん」「くもさん」「トマト」「青い青い秋ですよ」「いぬのおまわりさん」

第2部

▼ヘンデル▼

キャロライン王妃のための葬送アンセム

宗教曲と日本の歌がメインになりつつありますね。
小編成ながらもしっかりした曲を歌っていこうという、団の方向付けがなされた選曲のようです。

1992年10月17日 第3回演奏会 南大阪教会

第1部

▼鈴木行一▼

混声合唱組曲「美しいものについて」

▼マドリガル▼

「楽しく歌いましょう」「ダメなのよ」「キスはよして」

第2部

▼ソプラノ独唱:堤充代▼

「アヴェ・マリア」(グノー)

「私のお父さん(ジャンニ・スキッキ)」(プッチーニ)

▼ヴァイオリン独奏:高森真貴子▼

“Perpetuum Mobile”(ベートー)

“Meditation Op.32”(グラスノー)

第3部

▼J.S.バッハ▼

ミサ イ長調 BWV234

“Kyrie” “Gloria”

ああ、もう、バッハは二度とやらないからっ。
なしてこんなに音符がタカタカ動くのだ。昔の人はこんな曲をさらさらと歌っていたのか。
一般ピープル向けには作っていないのね(そらそーだ)。
ソロ、合唱ともに悲壮な顔で練習していたことを思い出します。
比べて日本語の「美しいものについて」は、気づかないけど身近にある美しさを歌えて楽しかったなあ。

1993年10月16日 第4回演奏会 南大阪教会

第1部

▼新実徳英▼

混声合唱とピアノのための『花に寄せて』より

「たんぽぽ」「ねこじゃらし」「てっせん・どくだみ」「ばら・きく・なずな」

▼G.P.パレストリーナ▼

「鹿が泉の水を求めるように」

「バビロン河のほとりで」

「イエスが十字架に架けられたとき」

第2部

▼J.ハイドン▼

ミサ第6番 ハ長調「Missa Cellensis」

「花に寄せて」の「ばら・きく・なずな」を歌った時、不覚にも涙がこぼれました。

全身の自由を失った星野さんが、

「神様がたった一度だけこの腕を動かしてくださるとしたら、母の肩をたたかせてもらおう...」

不可能だとわかっていても、不可能だからこそ願わずにはいられない人のこころの切なさ。

私ももう一度母に会えるのならば、一緒に紅茶を飲みたいな...

1994年10月15日 第5回演奏会 南大阪教会 観客動員数:137名

第1部

▼中田喜直▼

混声合唱組曲『午後の庭園』より

「水のころ」「合掌」

▼G.P.da.パレストリーナ▼

「オ・ヴォス・オムネス」

▼A.スカルラッチ▼

「エクスルターテ・デオ」

▼W.バード▼

「アヴェ・ヴェルム・コルプス」

▼W.A.モーツァルト▼

「アヴェ・ヴェルム・コルプス」

第2部

▼W.A.モーツァルト▼

ミサ・プレヴィス ハ長調 KV.258「Spaur-Messe」

「モーツァルトが演りたい！」と団員の数名が叫びました。

しかし、どの曲をやるのかについてはえらい難儀した覚えがあります。

あんさんぶるともだちでは慣例として、最初に楽譜を持ってきた人の曲が選曲されるのですが

(そこがこの団のいい所だ!)、この時は何故か誰も持ってこず、

仕方ないので私がとあるミサを持ってきたら没になりました。ふえ〜ん。

1995年10月14日 第6回演奏会 南大阪教会 観客動員数:136名

第1部

▼T.L.de.ビクトリア▼

「おお、大いなる神秘よ」「アヴェ・マリア」

▼G.フォーレ▼

「アヴェ・マリア」「タントウム・エルゴ」

▼日本の歌▼

「早春賦」「浜辺の歌」「椰子の実」

第2部

▼ヴァイオリン独奏:高森真貴子▼

『踊る人形』(ポルディーニ)

“Perpetuum Mobile”(ノヴァチェク)

▼バリトン独唱:山陸篤也▼

『もう訴訟に勝ったというのか(フィガロの結婚)』

(モーツァルト)

第3部

▼J.ハイドン▼

『スターバト・マーテル』

メインのスターバト・マーテルがなかなかの曲者でした。

やたらソロが多いのです。

ソリスト以外の団員は、合唱部分が少ないのでその分

丁寧に着上がることが出来てラッキー!

だったらしいですが、ソリストの負担が並ではありません。

今ここで言っときましょう、お疲れさまでした。

1996年3月30日 春のコンサート ぶくぶくホール

第1部

▼童謡▼

「春の小川」「七夕」「十五夜お月さん」「村祭り」「とうりゃんせ」「赤とんぼ」「手まり唄」「七つの子」

▼日本の歌▼

「早春」「早春賦」「荒城の月」「花」「浜辺の歌」「椰子の実」

第2部

▼A.スカルラッチィ▼

「喜び歌え」

▼G.P.パレストリーナ▼

「鹿が泉の水を求めるように」

「イエスが十字架に架けられたとき」

定期演奏会を離れて、河南町の皆さまに招かれてのプチ・コンサート。
お子様からお年寄りまで様々な年代のお客様にきていただいたのが何より新鮮でした。
皆さまに親しめる曲を中心に構成しましたが、「曲は簡単かな～」と思いきや、
知ってるだけに、旋律が単純なだけにかえて... <^_^>

1996年10月12日 第7回演奏会 南大阪教会 観客動員数:103名

第1部

▼日本の歌▼

「浜辺の歌」「椰子の実」

▼景山伸夫▼

「六月」「空蟬」

▼W.A.モーツァルト▼

『サンクタマリア・マーテル・デイ』

『アヴェ・ヴェルム・コルプス』

“Dir, Seele des Weltalls (KV. 429)”

第2部

▼バリトン独唱:山陸篤也▼

『美しき水車小屋の娘』(シューベルト)

▼ヴァイオリン・デュオ:平野有希・高森眞貴子▼

『2つのヴァイオリンとピアノのための組曲 Op.71』

(モーリッツ・モシュコフスキ)

第3部

▼W.A.モーツァルト▼

ディベルティメント 二長調

(オーケストラ:アンサンブル・モーツァルト)

▼W.A.モーツァルト▼

『ヴェスベレ ハ長調 (KV. 339)』

あんさんぶるともだちが、初めてオーケストラを付けた
記念すべき演奏会です。
音づくり以外にも色々苦労はありました。
でもでも、やっぱりモーツァルトをオケで歌えたことは
団にとっても私にとっても意義(陳腐な言い回しですが)あることでした。
ティンパニがね、いいんですよ。

1997年10月18日 第8回演奏会 南大阪教会

第1部

▼山田耕筰/北原白秋▼

「この道」「からたちの花」「赤とんぼ」

▼F. プーランク▼

『クリスマスのための4つのモテット』より

「おお、大いなる神秘」「牧人たちよ、何を見たのか」

「星を見て」「今日、キリストが生まれた」

第2部

▼ソプラノ独唱:高岡宏子▼

「もののけ姫」(久石譲 / 宮崎駿)

「宵待草」(多忠亮 / 竹久夢二)

「かやの木山」(山田耕筰 / 北原白秋)

「浜千鳥」(弘田滝太郎 / 鹿島鳴秋)

第3部

▼L.v.ベートーヴェン▼

『ミサ ハ長調』(作品86)より

「キリエ」「グローリア」「サンクトゥス」「ベネディクトゥス」「アニュス・デイ」

かなり早い段階で勢いよく(?)、ベートーヴェンの
“C-dur Messe” をやることに決まっていたと思います。
プーランクの“クリスマスの～”は、曲を聴いてみて、
誰もがそのあまりの神秘的な美しさに惹かれ挑戦して
みましたが、聴くのと歌うのとでは全く感じが違い、
またとつづきにくい旋律とハーモニーにた～いへん
泣かされました。神秘には程遠かった、ただがむしゃらに
歌ってしまったという印象です。

1998年10月10日 第9回演奏会 サンスクエア堺 観客動員数:136名

第1部

▼新実徳英/星野富弘▼

『花に寄せて』より

「たんぽぽ」「しおん」「つばき・やぶかんぞう・あさがお」「てっせん・どくだみ」「ばら・きく・なずな ～母に捧ぐ～」

▼中田喜直 女声合唱曲集より▼

「早春」「忘れな草」「夏の思い出」

第2部

▼バリトン独唱: 山陸篤也▼

『音楽に寄せる』(シューベルト)

『伯爵様、もしお踊りになりたければ(from FIGARO)』(モーツァルト)

▼ソプラノ独唱: 高岡宏子▼

『踊れ、喜べ、汝幸いなる魂よ』(モーツァルト)

▼ヴァイオリン独奏: 高森真貴子▼

『ルーマニア民族舞踊』(ゾルタン・セーケイ編)

第3部

▼W.A.モーツァルト▼

『レクイエム』K.626

初めてのホールで歌う心地良さ!! 全員興奮状態でした。
音響、照明など、教会とは全く勝手が違い、戸惑ったのも事実でしたが、
今後の活動を考えた上でも、良い経験ではなかったかと思えます。
プログラムのには、かなりハードでした。
こんなに盛りだくさんで、レクイエムの途中でバテないかしら…
そんな当初の不安を何とか凌ぐことが出来たのも、
異常な緊張感(?)の成せる業だったのかもしれないね。

1999年10月16日 第10回演奏会 南大阪教会 観客動員数:102名

第1部

▼三善晃 編曲▼

『唱歌の四季』より 「茶摘」「紅葉」

▼F. Poulenc (プーランク)▼

Salve Regina

▼C. Monteverdi (モンテヴェルディ)▼

『アリアンナの嘆き』

第2部

▼W.A. Mozart (モーツァルト)▼

『戴冠ミサ』(KV317)

アンコール

七つの子・赤とんぼ

2000年10月14日 第11回演奏会 南大阪教会 観客動員数:114名

第1部

▼池辺晋一郎『風の子守歌』より▼

「六つの子守歌」より

「風の子守歌」「空と海の子守歌」「いつもの子守歌」「思い出の子守歌」

▼Palestrina (パレストリーナ)▼

モテット選集より

Domine, quando veneri

Commissa mea pavesco

Super flumina Babilonis

▼バリトン独唱: 山陸篤也▼

「落葉松(からまつ)」 詞:野上彰/曲:小林秀雄

伴奏:堀内早苗

第2部

▼G. Faure (フォーレ)▼

『レクイエム』(作品48)

アンコール

七つの子・赤とんぼ

2001年12月2日 第12回演奏会 大阪センター教会

第1部

▼大中恩『こころの詩』より▼

▼Palestrina (パレストリーナ)▼

『ミサ・ブレヴィス』

第2部

▼バリトン独唱：山陸篤也▼

▼W.A. Mozart (モーツァルト)▼

『キリエ ニ短調』(KV341)

Sancta Maria, mater Dei (KV273)

アンコール

七つの子・赤とんぼ

2002年11月30日 冬のコンサート プール学院大学 観客動員数：195名

第1部

▼G.P.d.Palestrina (パレストリーナ)▼

Sicut cervus

▼Luca Marenzio (ルカ・マレンツィオ)▼

Hodie Christus natus est

▼『四季の歌』より：編曲 景山久雄▼

春の小川

十五夜お月さん

村祭り

第2部

▼L.v.Beethoven (ベートーヴェン)▼

『ミサ ハ長調』(作品86)

アンコール

七つの子・赤とんぼ